

「見えない支え」が力になる ～ワールドカップに学ぶ奉仕の心～

現在行われているサッカーのワールドカップ北中米大会。日本はFリーグを勝ち抜いて、決勝トーナメントに出場しましたが、1回戦で惜しくもブラジルに負けてしまいました。しかし、サムライブルーが最後まであきらめず戦う姿は、多くの感動を私たちに与えてくれました。その姿から学ぶものもたくさんあると思いますが、学校便りでは「奉仕の心」について、ワールドカップのエピソードを交えて紹介したいと思います。

● 感謝を行動で示す ～サポーターとロッカールーム～

ワールドカップの舞台で、日本代表チームの活躍はもちろんですが、それ以上に世界中から大絶賛された姿がありました。それは、試合後に日本のサポーターたちがスタンドのゴミを一つひとつ拾い集めて綺麗にする姿です。その始まりは、1995年に開催されたワールドカップメキシコ大会の予選大会だそうで、韓国戦敗退後、韓国人サポーターがスタジアムのゴミ拾いをする姿を目撃した日本人サポーターが、「サッカーでもサポーターとしても負けた」と感じたのがきっかけだそうです。それ以降、応援に使用する青いごみ袋に、試合後はゴミを集めるようになったそうです。

試合後、日本代表の美しいロッカールームも過去のW杯や国際大会でも度々脚光を浴びてきています。今大会でも整理整頓されたロッカーが海外メディアに伝えられ、称賛が集まっていました。また、ブラジル戦後と思われるものとして、ホワイトボードに青いペンで感謝のメッセージが記された写真が公開されました。「Thank you! World cup and Houston! Samurai Blue ALL Player Staff 最高の景色を!」さらに手書きの日本の国旗も描かれていた。

これらは単に「片付けをした」ということではありません。

「使わせていただいた場所や大会を支えてくれる人々への感謝を行動で表す」という「奉仕の心」の現れです。

● 「チームのために」自分ができることを ～見えない支え～

ピッチの上でスポットライトを浴びて戦う選手だけがチームではありません。大会中には、心を打つ「見えない支え」がたくさんありました。大会直前に大怪我をしてしまいメンバーから外されてしまった南野拓実選手。W杯の舞台で一緒に戦いたかったという思いから試合に出場できないことが分かっているながらも、チームに「メンター（相談者、助言者）」として同行しました。

そして、ブラジル戦前のミーティングでは、長友佑都選手があるエピソードを語りました。サポートメンバーの南野選手と吉田麻也選手（元キャプテン）が、チームのために泥だらけのスパイクを自ら磨いて片付けていたことです。「なぜ自分が試合に出られないのに、そこまでできるのか」——それは、「チームのために、仲間を応援したい」という強い気持ちが行動になっているからです。そして、その姿を見たスタメン



の選手たちは、「仲間のためにも、絶対に中途半端なプレーはできない」と、100%以上の大きな力を発揮することができたのです。誰かを応援し、支えようとする奉仕の心は、巡り巡って表舞台に立つ人の最大の力になります。

「奉仕の心」これは学校生活の中でも見られます。誰かの役に立とうとしてお手伝いをしたり、役職を引き受けたりすることも「奉仕の心」ですね。損得ではなく、「奉仕の心」でお互いを支え合っている集団は、とても温かいし、安心できるし、人を成長させる集団だと思います。深川二中には、そういう学校になってほしいと思います。

さて、夏休みに入ってすぐの7/18(土)・19(日)には二中の校庭で冬木盆踊り大会が行われます。ボランティアとして、美術部はポスターの作成、ボランティア部は会場設営や各ブースのお手伝い・二中学生ブースの運営をします。「奉仕の心」で頑張してほしいし、お手伝いできる方はぜひボランティアとして参加してくれるとうれしいです。よろしくお願いします。



給食お手伝い隊

6月26日(金)に第3回給食お手伝い隊がありました。今回は朝7:45からの活動でしたが、38名の生徒が参加してくれました。内容は枝豆もぎ(東京産)です。当日の給食でおいしくいただきました。



生徒総会

6月26日(金)の6時間目に体育館で生徒総会が行われました。各委員長から活動目標や活動内容の発表があり、事前の学級討議で出された質問に対して、丁寧に回答していました。これによって生徒による自治活動である生徒会活動の活動方針が決まりましたので、深川二中を生徒の手でより良い学校にしていこうと積極的に活動していきましょう。



T G G

6月30日(火)に2年生がT G G (TOKYO GLOBAL GATEWAY)に行ってきました。これは江東区の施策「豊かな体験活動」(区内の施設を活用する地域の特性を活かした体験活動)の一つとして区内の小学5年生と中学2年生を対象に行われている教育活動です。事前のアンケートをもとに決めた班ごとに、午前と午後それぞれ1つずつのプログラムを体験しました。どの班もエージェントのサポートのおかげで、楽しく英語だけでコミュニケーションをとることができました。今後の英語学習に活かしてほしいです。

